

きたしんがい通信 第1号

「^{きたしんがい}北新谷」とは、近代瀬戸町の瀬戸川以北のエリアの呼び名で、旧山繁商店の立地する周辺を指します。

平成29年3月5日(日)、瀬戸蔵において「第1回旧山繁商店保存活用計画策定ワークショップ」を開催しました。講師に旧山繁商店保存活用計画策定委員でもある延藤安弘氏をお招きし、古い建物の保存活用のヒントをいただきました。参加者は旧山繁商店について学んだうえで、自由闊達に意見を出し合いました。



旧山繁商店現地見学の様子。(新小屋と前倉庫の間)



延藤安弘氏プロフィール

1940年大阪府生まれ。北海道大学卒業、京都大学大学院修了。専門は生活空間学、都市住宅計画、住民参加。

数々の大学の教授を歴任後、現在はNPO法人まちの縁側育み隊代表理事を務める。コーポラティブ住宅や住民参加型まちづくり実践・研究の第一人者として、全国各地の住民主体のまちづくり活動に関わっている。

著書：『こんなまちに住みたいナー絵本が育む暮らし・まちづくりの発想』『創造的すまいづくり・まちづくり』等多数

●ワークショップの内容

瀬戸市では現在、市街地にある国の登録有形文化財である「旧山繁商店」を保存し、活用していく計画を作っています。

参加者はまず、旧山繁商店について知るために現地を見学しました。

そして、瀬戸蔵に戻ってから4~5人の4つのグループに分かれ、自由に話し合った後、グループ発表をしました。

第2回ワークショップではテーブルトークを中心に行い、より具体的な活用について話し合います。

① 幻燈会~Magic Lantern Party~

講師の延藤氏に、イタリアのボローニャで市民が主体となって行われた古い建物の保存活用計画について紹介していただきました。壁に映し出されたイタリアの様子は、参加者に旧山繁商店の保存活用計画を考えるうえでの大きなヒントとなりました。



② 旧山繁商店の説明・見学

旧山繁商店を見学しました。文化課の職員が旧山繁商店の歴史や、それぞれの建物の概要について説明しました。

③ テーブルトーク

瀬戸蔵に戻り、4~5人のグループで話し合いました。実際に現地を見学して受けた印象や、今後の保存活用について自由に話し合い、模造紙にまとめました。



④ 発表

テーブルトークで話し合った内容をグループごとに発表し、共有しました。(内容はP2・3をご覧ください)

⑤ まとめ

テーブルトークや発表をもとに、延藤氏が今回のワークショップのまとめをしました。(内容はP4をご覧ください)